

# しらいと

No. 56 2020. 3



白糸の大切なものを  
まん中に。

舞鶴市立白糸中学校

PTA文化部

## 「夢に向かって将来を切り拓くために必要な力」

校長 廣瀬 直樹

令和元年度も終わろうとしています。

生徒達は、卒業や進級に向けて、この1年をしっかりと振り返り、次の学年に向けた準備をしています。この振り返りの時期が、ぜひ自分が成長を感じることができ少しでも自信がもてる機会になってほしいと願っています。そのためにも周囲の大人が、頑張ったことを認めること、良かったことを言葉にしてあげること、ゆっくりでも少しずつでも大丈夫なことなど、プラスの声をたくさんかけて、次への力にできるように応援したいと思っています。

今、「非認知能力」が注目されています。定期テストや学力診断テストで測ることができないいわゆる学力は「認知能力」といいます。「非認知能力」は、テストでは測れない力のことで、具体的に「人とやり取りできる」「コミュニケーション力」、人の立場や思いに立てる「思いやり」や「共感性」、我慢できる「忍耐力」、自分をプラスに捉える「自信」や「自尊心」、前向きに頑張ろうとする「意欲」などたくさんあります。まとめて「人間力」(内閣府)、「生きる力」(文科省)、「社会人基礎力」(経産省)などと呼ばれています。

こうした力は、以前から社会人として自立していくために大切にされてきました。近い将来AI(人工知能)によって現在ある多くの仕事がなくなり、ますますグローバル化も進み、人々の価値観はさらに多様化する時代の中で、物事に柔軟に対応し、社会の一員として創造的に生きていくためになくはならない力として認識されています。この「非認知能力」は、生徒一人一人の夢や

目標を達成し、充実した人生を送るために大切な力で、人生にも大きな影響を与えるということになります。

では、「非認知能力」をどのようにして高め、伸ばすかということですが、何か特別厳しい訓練が必要なわけではないと思っています。とにかく日々の学校生活や家庭生活を充実させることだと考えます。好き嫌いや得意不得意もあるでしょうが、勉強をはじめ行事や取組、部活動、家庭の用事、その他日常の中で何か自分が頑張れるところを見つけて、それを粘り強くやり抜いてほしいと思います。例えば、体育祭でも学校祭(合唱コンクール)でも、一つのを友達と協力して作り上げるには、課題にぶち当たると思いますが、そんなとき友達と乗り越える過程で、協働することやコミュニケーションを取る必要があります。友達のために力を尽くすことや、友達のために自分を抑える必要もあります。行事一つの中でもたくさん「非認知能力」を伸ばしていくことができます。学校でもこのような視点で様々な取組を進めていきたいと考えています。

日常の授業、行事や部活動などの学校生活の充実がとても大切です。新年度も、「認知能力」と「非認知能力」をバランスよく伸ばしていけるよう頑張ります。



## 学校行事に参加して

一年生保護者 山中 宏介

今年度の文化事業として、アトリエサリュの森脇先生のご指導でハーバリウム作りを体験しました。ドライフラワー等をオイルと一緒にガラス瓶に詰めるのですが、四十のおじさんには、ハードルが高いなと思いつつ講義が始まりました。色が人の心にもたらす効果を教わる中で、徐々に創作意欲が湧いてきました。一緒に参加した息子も最初は無理やり連れてこられた感がありました。友人や私と何色にするとか楽しみながら製作していました。思春期に入り一緒に何かをする機会が減りつつあるなかで、とても楽しい時間を過ごせました。折しも講義の数日前より、東北での甚大な台風被害が報道されており、当たり前だと思っている日常のありがたみを感じていたため、余計に大切な時間を過ごせたと感じました。今も、我が家には一緒に作った可愛い？ハーバリウムが飾ってあります。皆さんも、またの機会に、お子さんと文化事業に参加されることをお勧めします。



## 令和元年を振り返って

一年生保護者

娘が白系中学校に入学し、一年生も終わりに近づいてきました。学年委員になり学校に行くことが何回かあることで、娘の学校での出来事を聞いたときにイメージしやすく、共通の話も出来て良かったです。新しい環境での様子を話してくれることは親としては安心でき楽しく聞けました。二期には新しく知り合ったクラスの子との関係に悩みが出てきて親子だけでは解決せず、担任の先生に相談したところ、すぐに間に入って解決してくださり大変助かりました。

参観日や体育祭や学校祭で中学校に入らせてもらい感じたのは、自分の中学との違いです。場所も時代も違いますが、今の白系の中学生は真面目な子が多いように感じました。知っている子をみかけては成長を感じて嬉しくなり、このまま真っ直ぐ育ってねと勝手に願ってしまいます。先生方には子供を褒めて伸ばして、子供が主体で動けるよう見守ってください、子供にキチンと向き合っていたら、本当にありがとうございます。給食の時間には人気のあるアーティストの曲を流してもらえると嬉しいですね。

中学生はたくさん可能性を持っているなあと思います。思春期の色んな悩みが邪魔してその時は分からないけど、親から見るととても生き生きとして眩しい。娘は友人関係で悩んでいます。白系の豊富な人材に困まれて遅く育ってほしい。これからも充実した中学校生活を送っていきけるよう心を離さず、将来に向けて娘をサポートしていきたいです。

## 令和元年を振り返って

一年生保護者

平成から令和へ、大きな時代の転換期を迎えた令和元年、親として子供に何を伝えられるか、伝えなければならぬか、そう考えるうちに何故か「伊勢神宮に参拝しよう！」そう決意しました。

伊勢神宮は天皇陛下のルーツである天照大御神が祀られています。令和を迎え、参拝することは例年以上の意味がある、そして、何かを感じ取ってほしいと思い、令和元年九月吉日、家族全員で伊勢神宮に向かいました。

伊勢神宮に参拝する日程を決めて以来、子供の目的は参拝よりも赤福餅や伊勢うどんなどの伊勢グルメや土産物散策のおかげ横丁が目当てとなっていた様子ですが、十月には即位礼正殿の儀を控え、テレビ報道も頻繁に行われていたこともあり、子供にとって初めて訪れる三重県ですが、歴史背景を踏まえ、一定の意味を理解していた様子です。

当日は、先ず外宮を訪れスケールの大きさに触れ、いよいよ内宮、天照大御神が祀られている正宮に訪れます。荘厳な佇まい大鳥居をくぐり、いよいよ参拝。先ずは二拝二拍手、そして感謝の心を捧げ、その後一拝、その短い時間に子供は何を感じとったのでしょうか。

参拝は親としての自己満足だったのかもしれませんが、新しい時代を迎えた年に、伊勢神宮にお詣りした、この事実が今後長い人生の何かの糧になればと心から感じています。新しい令和の時代は確実に子供たちの時代であり、立派な大人に成長してほしいものです。

## 令和元年到来なれども波高し

一年生保護者

本年は、平成から令和へと新たな時代を迎えました。世間では令和改元を祝うニュースが飛び交っておりましたが、令和になったからと言って明るい展望を示すニュースばかりではなく、特にAI（人工知能）の進歩とその活用におけるニュースに触れていると未来像は決して薔薇色のものだけとは限らず、負の側面もあると感じました。AIが私たちの生活の中に溶け込むにつれ、子供たちが将来に就きたいと思っている職業が駆逐されていることは想像されることであり、子供たちの未来に対して、我々大人たちはこれまで以上に日々の動静に傾注し、よりよき方向に導いてやれる能力が求められているのではないかと思います。

さて、令和二年は五十六年ぶり、二度目の東京五輪の年であります。先の東京五輪は大東亜戦争からの復興と更には高度経済成長下での開催であり、誰もが頑張れば希望のもてる未来像が描ける時代でした。今回の東京五輪は東日本大震災からの復興の象徴としての開催であります。日本のみならず世界の今日の状況は、貧困と格差の拡大やヘイトスピーチなどの憎悪と偏見の伸張等々、混沌とした時代の中にあります。オリンピックの精神は「スポーツを通じた心身の向上、文化・国籍などの違いを乗り越えた友情、連帯感、フェアプレーの精神による世界平和実現への貢献、そして環境」とされています。こんな時代だからこそ、今夏開催の五輪が、子供たちに夢と希望を与える祭典となるよう切に願うところです。



## 無題

二年生保護者

昨年度第一子が入学しました。入学当初、新生活の期待と不安が入り混じり、時には不安が大きく表れて過ぎておろし、「どうしてやればいいのか…。どう声をかけてやればいいのか…。」と親も手探り状態で過ごした一年間でした。そして今年度、進級しクラス替えもあり又新しい環境でのスタートに心配は尽きませんでしたが、昨年の色々な悩みや葛藤から自分なりに答えや方向性を見つけて自分のペースで学校生活を頑張る姿が見られる様になり、成長を感じることが出来た一年でした。

又、今年度は役員という形で各懇談会や行事に関わらせて頂き、先生方や他の保護者の皆様とお話する機会があり、子育ての悩みや情報を共有したり共感したりと貴重な経験をさせて頂きました。事感謝しています。ありがとうございます。次年度は、中三。進路等子供共々悩む事も増えると思いますが、子の成長と共に親も成長できる様に日々過ごしていきたいと思っています。



## 学級委員を振り返って

二年生保護者

日馬 朋加

私は仕事優先になり、あまり学校行事に参加できていませんでした。

娘が中二になり、学級委員に選出され、様々な活動をさせて頂く中で娘と二人で参加したPTA文化部の企画「ハーバリウム作り」はとてもいい体験になりました。

好きなドライフラワーとオイルを瓶に入れ、部屋に飾るとオシャレな瓶をいつの間にか時を忘れて娘と夢中になって作っていました。親子で物作りをしたのは小学校低学年以来だったのでとても貴重な時間を過ごすことができ、娘の喜ぶ顔を見ることができました。

他にも体育祭や学校祭で見られる子供の成長や日々の成長に伴う子育ての悩みなどは学校の懇談会に参加する事で安心感や共感を得ることができました。

これからも学校行事などできる限り積極的に参加しようと思います。



## 無題

二年生保護者

今年度初めて学年委員を務め、様々な行事に参加させて頂きました。

印象に残っているのは学校祭です。昨年は二日間行われ両日学校へ足を運びました。楽しみにしていた我が子の学年の歌声はあまり覇気が感じられず、美しい歌声ではあったのですが、感動するまでには至りませんでした。ですが、今年度はなんとという事でしょう！全クラス「我がクラスが最優秀賞を取るぞ」という気迫溢れる素晴らしい歌声でした。当日までクラス一丸となって一生懸命練習してきた想いをのせた歌声に感動しっぱなしでした。一日開催となり全学年での順位が出ませんが、もし出れば二学年が上位を占めるのではと思うほどの歌声でした。

来年度は受験の年となりますが、勉強だけにとらわれず各行事に精一杯取り組んで悔いのない一年を過ごして欲しいと思います。この一年は人間関係に悩み、我が子にとって辛い一年となりました。先生方には何度も相談にのって頂き、心より感謝しています。

普通に登校出来ていても心の傷は深く、学年後半は家庭での会話はそれが主でした。目に見えなくても苦しんでいる生徒がいます。私たち大人（親・先生）は、登校出来ているからと安心せず、に子どもの心に寄り添い、心のケアをしていかなければと思う日々です。

## PTA活動に参加して

二年生保護者 宮川 律子

本年度、二学年委員に選ばれ、引き受けました。あつという間の一年でした。

この一年を振り返って、最初は何もわからず不安を抱えてのスタートでしたが、保護者の皆様や、先生方のご支援により、なんとか務めることができました。

主な活動としては、資源回収に参加させて頂きました。子育てに関する話など、ふだん、聞けないような話もありました。

振り返ってみますと、自分にとっても、充実し大変勉強になったと感じる一年間でした。

最後にお世話になった役員様を始め保護者の皆様、先生方、協力して頂いた皆様、本当にありがとうございました。



## 子どもの居場所

二年生保護者 高橋 敏一

先日「聖母の小さな学校」の創立30周年を記念するシンポジウムがありました。「不登校だった私が、なぜ今の自分が好きだと言えるようになったのか」というテーマで、卒業生や教員、保護者、職親といったかかわりのあった人々のお話をうかがい、立命館大学の野田正人教授の「教育機会確保法と不登校支援」という講演を聞きました。

「小さな学校」と名付けた意味は、不登校の生徒は一人一人違った理由があり、その一つ一つに丁寧に向きあうことのできる小さな学校を目指したとのことであり、今では府教委の認定フリースクールとなっているとのことでした。

野田教授は「不登校に関する調査研究協力会議座長代理」として、文科省の不登校支援策をまとめてこられた方で、いままで教育界で取り組まれてきた対応策について詳しく説明され、今日の到達点が、「教育機会確保法」とのこと。

この法律に基づいて文科省からは基本指針が出されていますが、昨年10月に通知された「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」では、不登校生徒への支援の基本的な視点として、『「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを指す必要があること。』とした上で、「児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある」とする一方で、「学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること。」としています。

確かにこういったリスクをどのように本人に伝えるかは、なかなか難しいですが、不登校の時代を後から積極的に受け止めることができるように支援するのは重要です。

また、不登校に対する学校の基本姿勢として「様々な専門スタッフと連携協力し、組織的な支援体制を整えること」とし、「不登校が生じないための魅力ある学校づくり、『心の居場所』としての学校づくりを進めるためには、児童生徒一人一人に対してきめ細やかな指導が可能となるよう、適切な教員配置を行うことが必要」との指摘もあり、「保健室、相談室や学校図書館等の整備」によって、生徒の個性と実情に合わせた「居場所づくり」の大切さにも触れています。

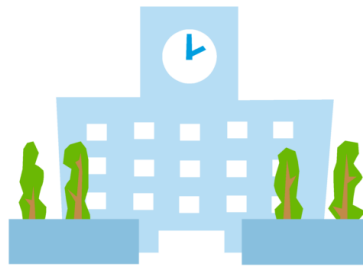
さて、ここで「学校図書館」もまた、そうした生徒の居場所づくりの場として認識されていることに注目してみましょう。昨年4月のことですが白糸中学校の学校図書館の入口には「本を読むため以外には入らない」という貼紙がありました。いろいろな事情や議論はあったのだろうとは思いますが、でも、誰でもが自由に出入りできるところに本が置いてあるから、読んでみようという気になるのです。そのため私は、その貼紙を見て残念に思いました。

文科省のWEBを探ってみると、文科省は、平成二八年に「学校図書館ガイドライン」というものを通知しています。これには「学校図書館は、可能な限り児童生徒や教職員が最大限自由に活用できるよう、また、一時的に学級になじめない子供の居場所となりうることも踏まえ、児童生徒の登校時から下校時までの開館に努めることが望ましい。また、登校日等の土曜日や長期休業日等にも学校図書館を開館し、児童生徒に読書や学習の場を提供することも有効である。」として、「本の倉庫」状態を脱して、

開館時間を増やし、生徒や教員の知的好奇心を引き出すことのできるような施設にすることが推奨されています。そのために「必要に応じて、学校図書館に関する校内組織等を設けて、学校図書館の円滑な運営を図るよう努めることが望ましい。」として司書教諭、学校司書などの必要な「大人」のスタッフ配置も提起しています。今後、学校の先生方、保護者、地域の方々の協力により、心の居場所となり、知的好奇心を育てる学校図書館に変わっていく日が来ることを待ち望んでいます。

## 無題

三年生保護者



この一年、三年生学年委員を務めさせていただきました。私自身初めてのことでただけでしたが、充実した一年でした。学校行事の中で楽しみにしているのが、合唱コンクールで、一年生の時より体育館中に歌声が響きわたり、子供たちが真剣に取り組んでいる姿を見て感動しました。また、学年委員をさせていただいたことで、先生方や保護者の皆様との交流を深めることができ嬉しく思います。一年間お世話になりました。

## 子育てについて日々感じること

三年生保護者



私には小三の息子と中三の娘がいます。七歳差の子供達ですが普通に喧嘩もし、気付けば二人でクスクス笑いながら仲良くしています。今、娘は受験に向けて毎日夜遅くまで勉強しています。そんな中でも弟の存在はたまに邪魔になっている様ですが、良い気分転換にもなっているようです。今まで私がいなくて何かと困っていた二人も、気付けば私がいなくなっても何でもできるようになっていました。嬉しいような寂しいような…。息子はまだ甘えてくる時もあるのですが、娘はもう来年から高校生。成長したなと改めて思う機会が増えました。この先も子供の成長を感じる時がたくさんあると思いますが、自分も衰えていくより一緒に成長していけるようになりたいと思う今日この頃です。



## PTA活動に参加して

三年生保護者

子供が入学し早三年、あっという間に受験生、中学校生活最後の年とあって、ひとつひとつの行事が終わることにさみしさを感ずる一年でした。

保護者として今年度文化部をさせていただく事になり文化行事ハーバリウムにも親子で参加させていただきました。講師の先生から説明を聞き親子で楽しい時間をすごす事が出来、貴重な体験ができました。お世話になった先生方がとうございました。

学校祭では、審査にも参加させていただき子供達の頑張る姿を近くで見させていただき大変感動いたしました。一年よい経験をさせていただきありがとうございます。



## そのチャンスを掴む

一学年 近藤 秋人

ある出来事があったことで、学んだことがある。

今から5年ほど前、実家の近所に住んでいる、幼少期から大変お世話になっていた方がこの世を去った。身内でもない家族に本当によくしてくださった方で、節目には必ず挨拶もかねて訪問していた。

自分の下の子を連れて散歩をしている時、ふとその人の家の側を通りかかったことがあった。二人目の子どもが生まれてから見せに行ったことがなかったので、お邪魔しようかと思っただけ、時間的にも暗くなりかけていたし、なにも連絡せずには失礼かと思いい、その時は会わずに終わってしまった。その数日後に突然の訃報が舞い込んできた。あの時会っていればと心底悔やんだ。今まで気をかけてもらっていた、せめてもの恩返しができるようになってしまった。あの時、行動していれば。

それから数年が経った。その間に、自分が成長するために、必ずものにしたと思う瞬間があった。ある本と出会ったことがきっかけだ。自分でも驚くくらいの行動力だった。出版社や印刷会社に電話し、関係する書籍を読み漁った。運もよかったのだと思う。今ではその著者ともつながり、教えを乞うまでもなれた。残りの教師生活をかけてでも研究しやり遂げたいと思っている。

自分にとって大切なこと、あるいは人生が好転しそうなチャンスに出会った時、そのチャンスをものできる行動力が必要だと思う。その一歩が踏み出せるかどうか。学んだことを常に自分に問うていきたい。

## 支え合い

山内 薫

今夏の2020東京オリンピックは、56年ぶりの自国開催となり、日本中が特別な盛り上がりを見せています。代表を目指す選手が特集で取り上げられることも多く、メディアで目にする機会も増えました。その中で、選手たちはインタビューを通して必ずと言っていいほど自分が受けた「支え」について話をします。輝かしい成績の見えない部分には、多くの支えと協力があることが分かります。私は、この支え合う力こそ、これからの社会で大切になってくる力だと思います。

職業を例にすると、2030年頃には、現在の日本の労働人口の約50%がAIやロボットで代替可能になる可能性が高いという予想があります。一方、他人との協調が求められる職業や芸術に関わる職業は、AIには置き換えが難しいとされています。つまり、今の子どもたちには、AIに置き換えられない創造力や行動力、協調性を備え、言語や文化の異なる人々と協力し合って、社会を支えていくことが求められているということです。

子ども達には、大きく変化すると言われる時代を互いに支え合うことで乗り越え、自分たちが生活をする社会全体がより豊かになるように、互いを認め、目の前の困っている人に手を差し伸べられる人であってほしいと思います。



## 白糸中学校へ来て

三学年 片岡 里沙子

白糸中学校に転任し、早くも一年が経とうとしています。音楽の教師ですので、転任後すぐの仕事は校歌を弾いて覚えることでした。音楽の先生のくせにピアノは得意な方ではありません。仕事の後に音楽室のピアノをお借りして、必死に、もう本当に必死に練習しました。着任式当日、ステージに上がったと思いきや、急にピアノのところへ降り、校歌を弾く。これほど緊張したことはありませんでした。(大きなミスなく終わりました。)

私にとって新しいことばかりだった今年度は、毎日が刺激で、様々な行事であつという間に過ぎていった一年間でした。前任校は小さな学校でしたので、人数の多さ、規模の大きさに圧倒されました。授業ですべてのクラスの生徒に出会うので、顔と名前を一致させることに時間がかかってしまいました。(呼び間違えなどごめんさい)

また吹奏楽部の顧問も任せていただきました。白糸の吹奏楽部は人数が六十人以上という…これまた大人数の部活動で、顔、名前、担当楽器の一致とこれも時間がかかってしまいました。

仕事をしていく上で分からないことはすぐに尋ねることが大切ですが、学年の先生方や三年二組の生徒たち、吹奏楽部の生徒たちは尋ねるよりも先に様々なことを教えてくれました。意欲的な生徒が多く、毎日がとても楽しい一年間でした。来年度もどんな一年になるのかとても楽しみます。

## 「一笑懸命・出愛」

二学年 谷 佑貴

「一笑懸命」という言葉が苦手でした。中学校の時の自分のことです。教師になってから「一笑懸命」という言葉がどんどん好きになりました。それはたくさん生徒が、様々な場面で「一笑懸命」な姿を見せてくれたからです。私は、「教師は生徒に教える立場」という考えにとらわれていました。しかし、実際教師として働き始めると、情けないことに生徒から学ぶことが本場に多いことに気が付きました。日々の授業での学び、体育祭や学校祭での絆、部活動での輝き。どれをとっても「一笑懸命」な生徒の姿から勇気をもらうことばかりです。「一笑懸命頑張った人は、心から笑える」ということを教えてもらいました。今、私の座右の銘と学級通信のタイトルは、「一笑懸命」です。

人は人生の中でたくさんの人と出会います。様々な出会いに感謝することを心がけています。生徒とともに学び合い、たくさんのお会いで成長し続ける教師でありたいです。そんなたくさんのお会いの連続は、人生を良い方へ導いてくれます。以前卒業した生徒にこんなことを言われました。「先生は私を変えてくれました。変わるのには本当に勇気が必要でした。でも、私は今の自分の方が好きです。」この言葉で私も変わりました。教師として出会った皆さんの生徒との一つ一つの出会いを大切にしたい。と心から思うようになりました。「一つ一つの出会いには、深い愛がある」ということを教えてもらいました。今年度の私の学級通信の第一号のサブタイトルは、「出愛」です。

受けるばかりではなく、与えられる教師であるために、日々精進して参りたいと思います。

## 私の目標

事務職員 清水 真起子

早いもので、白糸中学校へ来てからまもなく一年がたとうとしています。普段は事務室にいますので、生徒たちと直接関わる機会があまりないのですが、ホールや廊下から聞こえてくる声に耳を傾け、パワーをもらいながら毎日を過ごしています。

元号が平成から令和に変わりましたが、これを機会に何か目標を立ててみようかと思いましたが、具体的なことは思いつきませんでした。

今まで私は「笑顔」を大切に過ごしてきました。思い返せば子どもの頃、「いつもニコニコしとるなあ。それを見ている自分も元気になるわ。」と言っていたことがあり、すごく嬉しかったことがあります。笑っていると自分も元気になるけれど、周囲も明るい気持ちになれることがあることに気が付いたのは、ずいぶん後になってからでしたが、今も頭の中に残っている言葉です。結局、令和になっても、「笑顔を大切に、元気に過ごすこと」が私の目標となっています。



## 人生の選択ゲーム

一学年 若竹 黎也

人生とは、選択ゲームだと思う。ただし、上書き保存しかないやり直しのできないゲームだ。

普段生活していると、選択する機会が多くある。例えば、休みの日に、どんな服を着ていくか決めるとき、今日のご飯は何にしようか考えるときなどがあげられると思う。そして、中学校生活で一番大きな選択といえば、進路選択だと思う。どの高校に行くか選択することで、この先の人生が決まってしまう。私自身、高校選択するとき、とりあえず部活ができればいいやとくらいしか考えていなかった。無事合格できて楽しい高校生活を送ることができたけど、もしここで別の高校を選択していればどのような人になっていったのだろうと時々考えるときがある。学校が違えば、出会う先輩後輩、同級生や先生も違う。行事や文化も違うだろう。

自分自身が選択したことは、誰にも変えることはできない。間違えていたかどうかも分からない。だが、正解だったかどうかも進んでみないと分からない。後悔するかもしれない。でも、選択するのは自分自身しかできない。たとえ厳しそうなことでも嫌なことでも選択しなければいけない機会は必ず遭遇する。人間は楽な方に逃げようとしたくなる。それでも信じて進むしかない。

もし、選択に悩んだ時には、友達や両親、先生に助けをもらえばいい。最終的には自分自身で決めなければいけないが、時には助けをもらうことも悪くはない。

助け合いながら選択して自分自身の人生を決めていく。それが、人生の選択ゲームだと私は思う。

## 約束

二学年 萱原 拓己

みなさんが生きていく上で一番難しいと感じることは何でしょうか。日本語に加え、英語や中国語などといった多言語を習得することでしょうか。死ぬ気で勉強して京大や東大といった難関大学に合格することでしょうか。人によって難しいと感じることは様々だと思います。そんな中私が一番難しいと感じることは「自分の約束を守ること」です。人に迷惑をかけないように、他人との約束は必ず守ります。しかし、自分との約束はどうでしょうか。破ったとしてもそれに気づくのは自分だけです。そこで、ふと私のこれまでの生活を振り返ってみました。

学校や職場では必ず評価がつきます。何か一つでもできることが増えれば評価は上がり、成長しなければ評価は変わりません。「自分ができることが少ない。」どんな地位に就いてもみなさんがはじめにぶつかる壁だと思えます。そんな時、私は「自分ができるところまでやる」という自分との約束を守ることを意識しています。言葉では簡単に言えますが、本当に難しいことです。

思うようにいかないと思ふこともあります。けれども、自分で決めたことを継続できているということは思っている以上に自分に自信を与えてくれます。

これから白系中学校で過ごす日々の中でも初心を忘れず、自分との約束を守っていききたいと思っています。

